

中小企業景況調査報告書

令和7年 7 ～ 9月期 実績

令和7年 10 ～ 12月期 見通し

鹿児島県商工会連合会

(令和7年10月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集して、全国商工会連合会と連携し、全国一斉に実施しているものです。

この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	--	--

- 調査対象期間 令和7年7～9月期を対象とし、調査時点は令和7年9月1日とした。
令和7年10～12月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 かごしま市・南九州市・薩摩川内市・長島町・伊佐市・姶良市・霧島市
志布志市・大崎町・垂水市・東串良町・西之表市・龍郷町・徳之島町
- 回答企業 対象企業 208 企業
製造業：41 企業 建設業：30 企業 小売業：61 企業 サービス業：76 企業

県内産業別業況DI

		製 造 業		建 設 業		小 売 業		サービス業	
	6年 7 月 ～ 9 月 期		▲16.7		▲7.4		▲19.0		▲19.5
	6年 10 月 ～ 12 月 期		▲9.3		11.1		▲25.9		▲11.5
	7年 1 月 ～ 3 月 期		▲18.6		10.4		▲13.8		▲26.0
	7年 4 月 ～ 6 月 期		▲12.5		16.6		▲23.3		▲22.4
	7年 7 月 ～ 9 月 期		▲31.7		20.0		▲37.7		▲15.8
	来期見通し(10～12月期)		▲12.2		10.0		▲21.6		▲8.0

総 合（業況）

前年同期（令和6年7月～9月期）と比較した今期（令和7年7月～9月期）の業況は、製造業▲31.7（前年同期比15.0ポイント悪化）、建設業20.0（前年同期比27.4ポイント改善）、小売業▲37.7（前年同期比18.7ポイント悪化）、サービス業▲15.8（前年同期比3.7ポイント改善）となった。

また前期（令和7年4月～6月期）と比較すると、製造業19.2ポイント悪化、建設業3.4ポイント改善、小売業14.4ポイント悪化、サービス業6.6ポイント改善となった。今期については、猛暑により農産物の不作に加え、県内では新燃岳の噴火、線状降水帯災害の影響で姶良霧島地域を中心に甚大な被災に見舞われ、営業に影響も出ている。

なお、来期（令和7年10月～12月期）の見通し（DI）は、今期と比較すると、建設業10.0ポイント悪化の見通しとなるものの、製造業19.5ポイント、小売業16.1ポイント、サービス業は7.8ポイント改善の見通しとなる。10月からの値上げ並びに11月からの最低賃金の改定により、人件費の増加により価格転嫁ができるのが課題となっており、さまざまな要因が需要の停滞をもたらし、引き続き中小企業・小規模事業者において利益の確保が厳しい状況が続くと思われる。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 41 企業

調査対象企業内訳：食料品(20)、飲料・飼料・たばこ(6)、繊維工業(1)、衣類・その他繊維製品(1)、一般機械器具(2)、家具・装備品(1)、木材・木製品(1)、プラスチック製品(1)、印刷・同関連(3)、金属製品(2)、窯業・土石製品(1)、その他(2)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
6 年 7 月 ～ 9 月期		▲19.0		▲45.2		▲11.9		▲16.7
6 年 10 月 ～12 月期		18.6		▲23.2		▲4.7		▲9.3
7 年 1 月 ～ 3 月期		2.3		▲23.3		▲11.9		▲18.6
7 年 4 月 ～ 6 月期		▲2.4		▲31.0		▲2.4		▲12.5
7 年 7 月 ～ 9 月期		▲21.9		▲43.9		▲19.6		▲31.7
来期見通し 10～12 月期)		▲2.5		▲29.2		▲9.8		▲12.2

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・ 需要が停滞する中、ガソリン代等の諸経費高騰により厳しい業況である。ガソリン暫定税率廃止による価格低下に期待している。
(木製家具製造業)
- ・ 仕入先からの値上げが増えだし、銀行からの資金回収を急いでいるような言動を感じる。加えて、大幅値上げの結果、スーパー等の取引先の取引量が減った。
(調味料製造業)
- ・ 若者のアルコール離れが大きく、需要が落ち込んでいると感じる。
(酒類製造業)

経営上の問題点

第 1 位	原材料価格の上昇	35.3%	(前期比	－18.8)
第 2 位	人件費の増加	20.6%	(前期比	＋15.2)
第 3 位	需要の停滞	14.7%	(前期比	－3.9)

【建設業】 有効回答数 30 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(22)、職別工事業(4)、設備工事業(4)

	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
6 年 7 月 ～ 9 月期		14.8		3.7		▲3.7		▲7.4
6 年 10 月 ～12 月期		25.9		▲ 3.7		7.4		11.1
7 年 1 月 ～ 3 月期		17.2		▲20.7		6.9		10.4
7 年 4 月 ～ 6 月期		24.2		▲10.3		10.0		16.6
7 年 7 月 ～ 9 月期		20.0		0.0		23.4		20.0
来期見通し 10～12 月期)		▲3.4		3.4		16.7		10.0

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・ 当初受注していた工事の他に 6 月の新燃岳噴火による土石流災害、8 月の線状降水帯災害等により急遽地元業者として緊急対応要請として災害復旧工事が急増しており、下請業者等の確保に四苦八苦している。
(一般土木建築業)
- ・ 物価上昇が緩やかになり、価格転嫁が追いついてきたことで見込み通りの利益を確保できた。受注は新築より改修の割合が増えているが、改修の場合、売上が上がりにくく人出もかかる。
(一般土木建築業)
- ・ 生コン等価格の上昇が尋常でなく 2 年で 1.5 倍以上。また木、プラ等の処分代も次々に連絡なしで値上価格で請求が届く。少しずつ建設業の形が変わっていることを実感。他社と差別化した技術の必要性を感じる。
(土木工事業)

経営上の問題点

第 1 位	材料価格の上昇	46.4%	(前期比	0.0)
第 2 位	従業員の確保難	17.9%	(前期比	0.0)
第 3 位	人件費の増加	14.3%	(前期比	＋14.3)

【小売業】 有効回答数 61 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(29)、各種商品(6)、織物・衣服・身の回り品(6)、家具・建具(3)、
自動車・自転車小売業(1)、その他(16)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
6 年 7 月 ～ 9 月期		▲25.9		▲31.0		▲14.1		▲19.0
6 年 10 月 ～12 月期		▲28.1		▲35.1		▲21.4		▲25.9
7 年 1 月 ～ 3 月期		▲20.7		▲24.1		▲10.4		▲13.8
7 年 4 月 ～ 6 月期		▲16.4		▲30.0		▲14.7		▲23.3
7 年 7 月 ～ 9 月期		▲29.5		▲41.0		▲29.5		▲37.7
来期見通 10～12 月期)		▲11.4		▲26.2		▲19.6		▲21.6

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・先日の大雨のより店舗が被害を受けた為、営業休止中。年内に営業再開できるかも不明。
(各種食料品小売業)
- ・少子高齢化による人口減少、物価高による購買意欲の低下など。明るい兆しが見えない。外国人労働者が増えても、売上が上がらない業種である。
(ホームセンター)
- ・地域小売店にとって、仕入れ商品の値上げは直接的な利益圧迫に繋がっており、毎月の資金繰りは日々厳しくなっている。借入も検討したいが金利上昇による影響もあり難しい。(その他各種商品小売業)

経営上の問題点

第 1 位	仕入単価の上昇	27.8%	(前期比	+1.9)
第 2 位	店舗の狭隘・老朽化	13.0%	(前期比	+5.6)
第 3 位	大型店・中型店の進出による競争の激化	11.1%	(前期比	+3.7)
第 3 位	消費者ニーズの変化	11.1%	(前期比	+1.8)

【サービス業】 有効回答数 76 企業

調査対象企業内訳：洗濯・理美容業(18)、飲食店(23)、自動車整備業(12)、宿泊業(8)、
運送業(1)、その他(14)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
6 年 7 月 ～ 9 月期		5.2		▲27.3		▲14.3		▲19.5
6 年 10 月 ～12 月期		1.3		▲24.4		▲11.7		▲11.5
7 年 1 月 ～ 3 月期		▲16.9		▲32.5		▲18.5		▲26.0
7 年 4 月 ～ 6 月期		▲17.3		▲26.3		▲14.7		▲22.4
7 年 7 月 ～ 9 月期		▲15.8		▲22.3		▲18.6		▲15.8
来期見通し 10～12 月期)		▲11.9		▲19.8		▲16.0		▲8.0

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・街の小さな店舗は、仕入という部分で大手外食チェーンにはかなわず、メニューにおける金額面でも対抗するのが難しい。今後益々、厳しくなっていくことが予想される。
(食堂・レストラン業)
- ・客層の棲み分けにより売上を維持してきたが、大手が価格を下げた事による顧客の流失が起きており、人件費が上がる一方で価格を抑えざるを得ない状況である。
(簡易宿所)
- ・自社の認知度も向上し利用者も増加傾向にあるが、価格設定が同業種と比較すると若干低く、今後の利用料金の見直しが検討課題である。
(教育、学習支援業)

経営上の問題点

第 1 位	材料等仕入単価の上昇	36.5%	(前期比	-1.0)
第 2 位	店舗施設の狭隘・老朽化	12.7%	(前期比	+3.3)
第 3 位	従業員の確保難	9.5%	(前期比	+3.2)
第 3 位	利用者ニーズの変化	9.5%	(前期比	-0.1)

全産業【鹿児島県】

令和7年7月～9月期

全産業

鹿児島県

2025年7月～9月期

	今期（前年同期比）					来期（対前年同期比来期見通し）				
	企業数	↗	→	↘	D I	企業数	↗	→	↘	D I
売上・完成工事・加工・収入額	208	22.6	38.9	38.5	-15.9	208	21.6	48.1	30.3	-8.7
売上（加工）単価・客単価	178	21.3	57.9	20.8	0.6	178	23.0	62.4	14.6	8.4
売上（加工）数量	41	14.6	43.9	41.5	-26.8	41	14.6	48.8	36.6	-22.0
客数	61	14.8	37.7	47.5	-32.8	61	16.4	52.5	31.1	-14.8
利用客数	76	15.8	44.7	39.5	-23.7	76	14.5	53.9	31.6	-17.1
資金繰り	207	6.3	71.5	22.2	-15.9	207	8.7	71.5	19.8	-11.1
輸出額	13	0.0	84.6	15.4	-15.4	16	6.3	75.0	18.8	-12.5
受注（新規契約工事）額	30	40.0	33.3	26.7	13.3	30	40.0	40.0	20.0	20.0
原材料・商品等仕入れ単価	205	78.5	20.5	1.0	77.6	206	67.0	31.1	1.9	65.0
原材料在庫数量	40	10.0	75.0	15.0	-5.0	40	7.5	77.5	15.0	-7.5
商品仕入数量	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
商品仕入額	61	57.4	21.3	21.3	36.1	61	47.5	32.8	19.7	27.9
商品・商品在庫数量	100	9.0	66.0	25.0	-16.0	100	7.0	67.0	26.0	-19.0
採算（経常利益）	208	12.0	47.1	40.9	-28.8	208	11.5	56.7	31.7	-20.2
従業員（含臨時・パート）	183	4.9	83.6	11.5	-6.6	182	3.8	72.5	4.9	-1.1
外部人材（請負・派遣）	93	5.4	87.1	7.5	-2.2	100	6.0	87.0	7.0	-1.0
設備操業率	39	7.7	69.2	23.1	-15.4	39	7.7	76.9	15.4	-7.7
引合	66	22.7	63.6	13.6	9.1					0.0
受注・契約残	67	13.4	70.1	16.4	-3.0					0.0
業況（自社）	208	13.9	51.9	34.1	-20.2	206	13.6	62.6	23.8	-10.2

	今期（前期比）					来期（対当期比見通し）				
	企業数	↗	→	↘	D I	企業数	↗	→	↘	D I
売上・完成工事・加工・収入額	208	26.0	40.9	33.2	-7.2					
売上（加工）単価・客単価	178	18.5	62.9	18.5	0.0					
売上（加工）数量	41	22.0	41.5	36.6	-14.6					
客数	61	16.4	44.3	39.3	-23.0					
利用客数	76	17.1	53.9	28.9	-11.8					
資金繰り	207	7.2	71.5	21.3	-14.0					
業況（自社）	208	14.4	58.7	26.9	-12.5	207	9.7	70.5	19.8	-10.1
受取手形期間	35	0.0	97.1	2.9	-2.9	35	0.0	97.1	2.9	-2.9
長期資金借入難度	157	5.1	82.8	12.1	-7.0	158	3.2	84.8	12.0	-8.9
短期資金借入難度（含手形割引）	122	8.2	82.8	9.0	-0.8	126	6.3	84.9	8.7	-2.4
借入金	157	23.6	76.4	0.0	23.6	158	19.0	81.0	0.0	19.0

	今期の水準				
	企業数	↗	→	↘	D I
業況（自社）	208	13.5	53.4	33.2	-19.7
生産に対する原材料在庫	41	2.4	87.8	9.8	-7.3
売上に対する製品在庫	101	9.9	82.2	7.9	2.0
採算（経常利益）	208	23.1	54.8	22.1	1.0
引き合い	66	12.1	71.2	16.7	-4.5
生産設備	39	0.0	87.2	12.8	-12.8
従業員（含臨時・パート）	184	1.6	78.8	19.6	-17.9

上2表

↗：増加・上昇・好転・長期化・容易
→：不変
↘：不足・低下・悪化・短期化・困難

左表

↗：良い・過剰・黒字・活発
→：ふつう・適正・収支トントン・ふつう
↘：悪い・不足・赤字・低調

産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移
(2022年10～12月期～2025年7～9月期)

